

第8回 津波防災地域づくりと砂浜保全のあり方に関する懇談会
議事要旨

日時：平成31年1月23日（水）
15:30～17:30

場所：中央合同庁舎2号館 低層棟
共用会議室2A2B

1. 津波防災地域づくり支援チーム【報告】

- ・海岸室を窓口にご相談すれば、ワンストップで部局横断的に連携チーム内に情報共有できるという体制は、すばらしいと思う。
- ・相談する際のフォーマットを作成する方が良い。

2 砂浜の利用上の価値評価に関する検討状況

- ・普通は、ロジットモデルか何かで推計するんだと思う。
- ・時間価値の費用はどうなるのか。結局、余暇に対する支払い意思が高い人と高くない人で変わってくると思う。
- ・単純に集計して平均値を出すだけで終わらせずに、もう少し分析すると色々なことができると思う。
- ・良い砂浜とそれほどでもない砂浜の類型化をしないといけないと思う。
- ・トラベルコスト法だとレジデンシャルな価値みたいなものは出ない。別途検討すると良い。
→今回の中ではそういった価値は出ないので、必要であれば別途考えていかなければいけない。

3 砂浜保全に関する中間とりまとめ

○素案について

- ・「はじめに」では、柿本人麻呂など文化に関する記載はあるが、昭和以降の映画や歌などの記載があっても良いのではないか。
- ・砂浜が160ha/年減少したという事実は良いが、今後も続くといったような誤解を受けないようにすべきである。
- ・大規模開発によって減少したのは砂浜であって、国土は減少していないので、誤解を受けない表現にすべきである。
- ・養浜が侵食対策でないように読めるので、誤解を受けない表現にすべきである。
- ・地域住民の定義と範囲は、現場的に課題となるので、具体的な場合を想定すると良い。
- ・「また、宮崎海岸では」は、唐突すぎるので、「例えば、宮崎海岸では」の表現にすべきである。
- ・総合的な土砂管理についてはURLを、自然共生型海岸づくりの進め方は書籍の情報を脚注につけるべきである。
- ・「砂浜の回復に長期間要している」という表現では、全ての箇所ですべて砂浜が回復して

いると誤解される。砂浜が回復していないところもあり、非常に難しいと伝えるべきである。

- ・「砂浜が後退する」ではなく、「汀線が後退する」の表現になると思う。
- ・社会の変化（レジャーの多様化等）への対応に関する課題として、海水浴場の占用許可の問題がある。スペインなどでは立派な恒久施設があって、とても魅力的である。一方で、日本では海の家のような仮設施設のままである。占用許可の考え方を換え恒久施設化することにより、外国人観光客も訪れるようになり、地域活性化に繋がるのではないか。
- ・予防保全型砂浜管理への転換を図ることを基本方針としているが、具体的には「順応的に管理すべき」となっており、予防保全的な内容を記載すべきではないか。
- ・予防保全対策といっているが、ここでの内容からすると、予見的保全対策のような概念ではないか。
- ・予防保全と順応的管理は定義が異なる。予防保全は外部変化を予測して管理する、順応的管理は外部変化に応じて管理する、といった概念の違いがある。予防保全では、外部状況をモニタリングして予測することが必要となる。これらを踏まえると、タイトルが「日本国土を俯瞰した」ではなく、「砂浜形成メカニズムを考慮した」などの意味合いが良いのではないか。
- ・文章の流れとして、モニタリング、ランク分け、順応的砂浜管理、予防保全とした方が読みやすいのではないか。
- ・予防保全に重点を移すのは良いが、転換しなくともよい。また、順応的管理はアダプティブマネジメントよりスコープが小さい。後者では、うまくいかない場合も含めた概念である。
- ・地域の実状を踏まえ、適切な取り組み手法を選択するようできるようにすることが現実的な対応ではないか。予防保全が効率的なのは間違いないので、これまで取り組まれていない予防保全も追加して取り組むという姿勢を強く言うべき。ある県の海岸保全計画において、予防保全と事後対応でやらざるを得ない箇所もあるであろうが、より効率的なものを後押しするようしてもらいたい。
- ・予防保全と順応的管理を議論する際に、領域的なものと、時間的なものが錯綜しているのではないか。また、病気で例えると、生活習慣指導がまずあって、症状が出てきたらこうする、最悪、手術する、などといった段階があるとして、予防保全はどの段階に相当するのか。
- ・砂浜の予防保全対策の推進については、対策が追いつかないのではなく、侵食対策を行う際に、B/Cの観点から侵食の著しいところから着手していた。本来は、下手から対策を行うべきであるが、事業手順とのギャップがそもそもの問題ではないのか。
- ・行政担当者の技術レベルが低下しているので、行政担当者の技術力の向上を記述してはどうか。
- ・後背地の地域が頑張らないと、海岸管理者任せでは駄目だという概念を入れられないか。地域が砂浜保全をしたいという枠組みがあって、国が支援するというスキームが良いのではないか。
- ・IPCCの報告では世界平均海面水位の上昇を言っており、日本沿岸域はまだわから

ないということをおくべきである。

- ・ 予防保全型砂浜管理の必要性は海面上昇が起これば、影響が確実に出るという意味で気候変動が説明しやすいのではないか。
- ・ 侵食に伴う、アクセシビリティや景観、生態系、名勝などの文化財が悪化、喪失したという問題点を書き込むべき。砂浜が物理的に消滅したという事例も、九十九里などでは数字を示せると思う。
- ・ 今後、環境・利用の議論の際に、生態系サービスや自然インフラという概念を入れるようにしてもらいたい。

○概要版について

- ・ 砂が絶えず動いているということ表現してもらいたい。
- ・ 総合的土砂管理の概念を入れ込むべきではないか。
- ・ 予防保全型砂浜管理を取り組むとコスト低減が図られることがわかると良い。兆候を捉えて、早めに手当てした場合としない場合のシナリオの違いが見えると良いのではないか。

以上